

日本産業衛生学会東海地方会

地方会ニュース

発行所 地方会ニュース編集事務局
〒 470-1192
愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪 1-98
藤田保健衛生大学医学部公衆衛生
電話 (0562) 93-2453
FAX (0562) 93-3079
発行責任者 井谷 徹

(題字 皿井 進筆)



初秋のリュクサンブール宮殿：パリの初秋は、日本人の感覚としては、肌寒い気候であるが、多くの市民が散歩やジョギング、ベンチでの語らいなどを楽しんでいる。余暇の過ごし方、生活のゆとりを考えさせられた。

新年明けましておめでとうございます。

東海地方会長 井谷 徹 (名古屋市立大学大学院医学研究科)



光陰矢のごとし。21世紀に入り早くも3年目を迎え、1900年代という言葉に郷愁を感じるほどです。20世紀から21世紀の移行は思っていたよりも淡々と進み、エポックメイキングな出来事はあまり無かったように思います。

しかし、2000年を境にしたドラスティックな変化はないものの、時代が確実に変化しているということも実感します。国際的な政治・経済の面では、世界貿易ビルへのテロ事件を契機として激化したテロへの反撃と、それに対するさらなるテロの応酬。国内的には、長引く不況やデフレ懸念(すでにデフレ状態?)と、その対応策としての機構改革を巡る混乱など激動の様相を呈しています。

産業衛生領域に目を向けますと、1970年代より始まった、法規や基準に基づいた活動(既製品の活動)から、個々の職場における健康リスク評価を基盤としたテーラーメイドな対応(注文品の対応)への移行は、21世紀に入り益々重視されているように思えます。昨秋、台北において開催されましたアジア労働衛生学会(アジア・オセアニアのみでなく米国、欧州からもそれぞれ20名弱の参加者があ

りました)においても、労働安全衛生マネジメントシステム=OHSMSに関する話題が多く、欧米・アジア諸国においてはOHSMSを基盤においた産業衛生活動が推進されている事を実感しました。21世紀3年目を迎えるに当たり、我が国の産業衛生活動も、既製品の活動から脱却し、職域健康問題の一次予防、それを実現するためのテーラーメイドな産業衛生活動をより強化する必要性を感じます。現場重視の産業衛生学の歴史を有し、かつ産業現場で活躍する会員を多く抱えている東海地方会がそうした活動の推進役になるよう、地方会員の皆さんとともに頑張りたいと思っております。

最後となりましたが、本年は「多彩な健康管理の課題と展望」をメインテーマとした第13回産業医産業看護全国協議会(2003年10月17、18日:於浜松)と、「職場改善へのサポート」をメインテーマとした第8回産業衛生技術部会大会(2003年10月29日:於名古屋)が東海地区で開催されます。全国的規模で産業衛生活動・研究の知識・経験を交流する好機であるとともに、東海地区における先進的な取り組みを全国に発信する絶好の機会でもあります。東海地方会員をはじめとする皆様のご協力、大会への積極的な参加をよろしくお願いいたします。

平成14年度 日本産業衛生学会東海地方会学会



川西 正祐 (三重大・医・衛生)

平成14年度日本産業衛生学会東海地方会学会(学会長:川西 正祐・三重大学医学部衛生学)が平成14年11月9日(土)、三重大学において行われました。この日は冷え込みが厳しく、みぞれ混じりの小雨がバラつく寒い

日であったにもかかわらず、98名の御参加をいただき、誠にありがとうございました。

午前中は、一般演題20題が2会場に分かれて発表されました。喫煙対策や健康診断、職業性ストレスやメンタルヘルス等について産業現場における保健活動の中から発した研究が多く報告されました。また、産業衛生に関わる基礎医学的研究もあり、幅広い口演内容となりました。会場の講義室では室温30℃に設定したにもかかわらず、かなり寒かったようで、学会事務局は恐縮しておりましたが、それを吹き飛ばすほど活発な討論が行われました。

午後は三翠ホールにおいてシンポジウム「職業がんの研究からがん予防の実践へ」が行われました。特別シンポジストとして愛知県がんセンター総長 富永祐民先生から「がんの1次予防と2次予防」についてお話し頂きました。たばこや食生活への取り組み、検診受診率の向上等が、がんの罹患や死亡を半減させるとの推計を示され、がん予防活動の重要性を再認識しました。伊藤直則先生に司会を交替して、私が「環境発がん」について概説し、職業がんから見出された多くの発がん物質は大気汚染やタバコ、食品といった身近な環境の中に存在しており、産業保健で培われた知識や経験、研究が一般成人でのがん発生の問題解決への糸口となるという事をお話しました。那須民江先生は「がんの分子疫学」、特に薬物代謝酵素遺伝子の多型とがんについて、将来のテラー・メイドの予防活動への展望も含めて最先端の知見をお話頂きました。柴田英治先生は「職業がんー建設業にみるがん死亡とリスクー」として、作業状況や取扱い物質等の問題点についてお話頂きました。また、フロアから、旭労災病院の五藤雅博先生からじん肺に伴う肺癌の行政上

の取扱い、また、松下電工の松田元先生から産業医としてのがんの予防活動への取り組みについて御発言頂きました。本シンポジウムで討議された内容が今後のがん予防活動の展開に生かしていただける事を祈念しております。

シンポジウム終了後にささやかな交流会を設けました。ビールを片手にサンドウィッチをつまみながら、和やかな雰囲気の中、シンポジストを囲んで色々な話の花が咲きました。

本学会を無事終えることができ、御参加頂きました会員諸氏、共催いただいた三重県医師会、また、ご援助・ご寄付をいただきました企業・団体に、この場をお借りして感謝申し上げます。

学会プログラム

- 日時 平成14年11月9日(土) 10:00~16:30
- 会場 三重大学医学部看護学科講義室、三翠ホール
- (午前の部) 三重大学医学部看護学科講義室
- ◆一般講演 10:00~12:00
- 第1会場(看護学科講義室1) 演題番号101~110
- 第2会場(看護学科講義室2) 演題番号201~210
- (午後の部) 三翠ホール
- ◆地方会長挨拶 13:00~13:10
- ◆シンポジウム 13:10~16:30

「職業がんの研究からがん予防の実践へ」
 司会:川西 正祐(三重大学)、伊藤 直則(藤田保健衛生大学)
 特別シンポジスト
 富永 祐民(愛知県がんセンター)「がんの1次予防と2次予防」シンポジスト
 川西 正祐(三重大学) 「環境発がん」
 那須 民江(名古屋大学) 「がんの分子疫学」
 柴田 英治(名古屋大学) 「職業がんー建設業にみるがん死亡とリスクー」

◆交流会



一般演題



富永祐民先生



シンポジウム



交流会

新春随想

「感動創造企業」の実現に向けて



内野 文吾 (ヤマハ発動機)

謹んで新年のお慶びを申し上げます。私は、昨年6月より、静岡県磐田市にございますヤマハ発動機株式会社 健康推進センターに専属産業医として赴任いたしました。産業医大を卒業した後、電機メーカーの専属産業医の他、数社の嘱託産業医を経験してきましたが、しばらく腰を据えて専念すべき場所にきたのだと考えています。私にとって全くはじめての土地でしたが、半年と少しが過ぎ、ようやく遠州弁にも慣れたかな、といったところです。そのような意味で昨年は私にとりまして一つの区切りの年であったと感じています。

弊社はモーターサイクルを中心とした輸送機器や自動車エンジン、船外機、舟艇、電動ハイブリッド自転車などの開発・製造を行っており、幅広い事業内容となっております。本社・周辺工場合わせて約9000名の人々に対して、どのように産業保健活動を提供していくべきか模索しているところであり、その一環として昨年より健康情報の一括管理による事後措置の充実や、特殊健診を含めた管理基準の見直しなどの作業を進めております。また、売上高が海外へシフトしてきており、海外拠点での多数の駐在員とその家族のサポートや、相談件数が増加傾向にあるメンタルヘルス、年々上昇する有所見率に対する総合的な健康づくりなど、取り組むべき課題は数多くあると考えております。企業理念として掲げております『感動創造企業』を実現するためには、感動を与えることができるだけの健康な心身が不可欠であるという考えのもとに、今年も全力を尽くしていく所存です。

一方、産業保健専門職として、この分野を発展させるための研究活動は重要であると位置づけております。ふさわしいテーマを探しながら、東海地方会にも参加させていただき、専門職としての素養を養っていければと思っております。

今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げますとともに、本年の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

「これからの産業歯科保健」



坪井 信二 (愛知学院大・歯・口腔衛生)

現在、我が国は世界で一番の長寿国であり、超高齢化社会を迎える事業場で働く人々の健康確保の充実が求められています。平成11年に行われた「歯科疾患実態調査」結果によると、歯を失う原因はう蝕と歯周病であり、その中でも特に成人期から壮年期にかけての世代の喪失は著しく、その対策が急がれています。ところが産業保健において口腔保健活動というとメッキ工場などを対象にした一部の特殊歯科検診を除いては労働法上の強制力がないのが現状です。50名以上の勤労者を雇用している事業場では一般定期

健康診断結果報告義務があり、約1100万人の方が受診しています。これに対し歯科健診はというと、一般定期健康診断の約10%しか受診していないのが現状であります。これらの背景には、事業主が歯の疾患が職場において障害になるということ認識していないのではないかと考えられます。しかし平成9年に労働省で実施された「労働者健康状況調査」によると、歯、歯茎の痛み・出血を自覚症状として回答したものは20項目中8番目であり、また持病に関する質問でも4番目に多い結果で、決して無視できるものではありません。平成12年3月31日に厚生省事務次官通知等により、健康づくりや疾病予防を積極的に推進するための「健康日本21」が開始され、その分科会の1つとして「歯」も位置付けられ、その中には青年期から中年期における歯周病や喫煙との関連なども組み込まれており、働く時期の健康確保の観点からも、また退職後の健康確保の観点からも歯科の取り組みが必要であると思います。最近では、Lifestyleと様々な健康とのかかわりに関する研究を通じて、Lifestyleが個人の健康度を決定する重要な要因であることが明らかにされています。特に歯周病は狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患、糖尿病、妊婦の早産などのリスクファクターであること、高齢者については摂食・嚥下障害や嚥下性肺炎などが生命に対して重篤な影響を及ぼすことが判明しています。このような点から考えてもこれからの産業衛生における口腔保健活動は積極的に健康を追求し、QOLの向上に取り組んでいくべきであり、今後より口腔保健に関心が向けられることを期待したいと思います。

昨年の企業を取巻く環境

『GRI』そして自殺防止NPO

駒宮 博男

(株)ヘルス・プログラミング
NPO法人 地球の未来 理事長
ぎふNPOセンター 副理事長



11月の中旬、GRI (Global Reporting Initiative) Japan』設立記念シンポジウムが東京

青山の国連大学で開かれたが、私は県庁内自主研究グループのメンバーとして参加した。エンロン、ゼロックスと続く企業の相次ぐ不祥事により、グローバル経済における企業評価は、経営指標偏重から、環境対策、社会貢献度等総合的な方向へ向かいつつあるようだ。これはグローバル経済のモラルが高まった故ではなく、純粋に経済的な事柄で、投資のためのより確かなる指標として複合的なファクターを導入せざるを得ない状況が発生したためである。

昨今大企業を中心として、それなりの費用をかけた環境報告書が続々と作成されている背景には、グローバル経済にこうした動きがあるためだろう。さらに、これからはもはや環境報告書ではだめで、『持続可能性報告書』が主流になるという考えすらある。

各社の環境報告書を読むと、多くの企業で『従業員の健康管理対策』が紹介されている。内容は有機溶剤や鉛等の対策などではなく、メンタルケアだったりする。如何に従業員に対する福利厚生が整っているか、如何に環境対策を講じているか、如何に地域社会に貢献しているか等、総合的なリポートを作成しないと、企業としての評価が下がる。そして、その評価は株価に大きく反映してしまうのである。平たく言えば、その企業が総合的に、如何に『持続可能』かが投資家の評価なのである。勿論こうした投資家ばかりでは

ないが、『社会的責任に対するファン』は欧米で急激に増加している。

そんな折、友人から某一流企業OB（元営業本部長）のS氏を紹介された。S氏はこれからの余生をなんと自殺防止のNPOに賭けようとしているのだ。現在私が様々なNPO活動に関わっていることを知った友人に、是非S氏に力を貸して欲しいと頼まれたのである。S氏によれば、現役中、幾度となく危険な場面に遭遇したが、社内の心理相談室はあまり機能しなかったとのこと。定年後すぐに産業カウンセラーの資格を取り、本格的に活動したいという話だった。私はS氏に賛同はしたものの、これほど重い仕事はないかも知れないと考えている。

* NPO法人地球の未来：持続可能社会構築をミッションとするNPO

* ぎふNPOセンター：公設備民設民営のNPO支援センター

「産業保健活動の振り返りと今年の抱負」



大鷹 順子（三菱化学健康管理センター）

近年、不景気の影響を受け、企業では雇用環境が変わりつつあります。人員削減等で労働者への仕事量は増加し、以前よりも強い不安やストレスを抱えた労働者は増加しています。

労働者1人1人への負荷が増大する中で、私達産業保健従事者は、それに対する心身両面へのストレス影響を減らしていくのが役割だと思っています。

そんな思いを抱きながら保健師として産業保健に携わり、4年の歳月が経ちました。振り返れば、企業に働く従業員の皆さんの姿、言動を見て学ぶ事、感謝する事、そして励まされる事が多かったと感じています。そして何より人生の大先輩として敬意を感じており、皆さんに少しでも心身両面の健康維持増進のサポートが出来たらと思っています。

しかし若輩な保健師であるため、現実には労働者の健康管理に貢献出来ているという充実感が今一步得られていません。なぜ満足出来ないのかと言えば、従業員個々との関わりが浅いのも理由の1つだと思います。これからの私なりの課題は、従業員個々と関わりを深める事です。

深める方法として健康相談が挙げられます。その機会を通じて対象者の行動の根拠となっている「思い」といった心の内面を理解していきたいと思います。そして従業員との信頼関係が構築出来るように努め、「保健師さんになら何でも話が出来る」と感じられる様な存在に少しでも近づきたいと考えています。それは言葉で書く程、容易に実現できるものではないと思います。究極の目標ではありますが、そんな存在になれば、従業員の心身両面のサポートに繋がると思います。また冒頭に述べた、労働環境の変化に伴い不安や悩みを抱えた労働者のストレス影響を減らせるとも考えます。

幸い、私の周囲には良いお手本となる先輩、上司、同僚がいます。その環境を自分自身の糧と出来るように、日々の産業保健活動に携わっていきたく思います。最後に、新たな年を迎え、昨年までを振り返ると共に、新しい気持ちで実りある年にしたいと思います。

in浜松 第13回日本産業衛生学会

産業医・産業看護全国協議会

—多彩な健康完治の課題と展望—

日程：平成15年10月17日（金）～18（土）

会場：アクトシティ浜松

企画運営委員長：鎌田 隆（静岡産業保健推進センター所長）

企画運営委員長代行：白田多佳夫（聖隷保健事業部 部長）

【プログラムの内容】

初日（17日）は、施設見学を企画し、浜松を代表する自動車、楽器の製作企業から本田技研工業（株）浜松製作所、ヤマハ株式会社、またダイオキシンの測定といった環境問題に取り組む（株）静岡県産業環境センター都田研究所、粉じん爆発といった環境問題に取り組む（株）環境衛生研究所、また高齢化社会の諸問題に取り組む聖隷福祉事業団の社会福祉施設といったコースを予定しています。特別講演では、静岡県の名産「お茶」をテーマに健康問題に取り組んでいる静岡県立大学食品栄養科学部の小國伊太郎教授、ワークショップ1では、若手産業医が中心となって産業保健における職域と地域のネットワーク（仮題）、ワークショップ2では、歯科の先生が中心となって海外派遣における歯科の問題といった企画を進めています。

2日目（18日）のメインシンポジウムでは、産業保健の今後の展望を念頭に産業医部会、産業看護部会、産業技術部会のそれぞれの代表者にご講演いただきます。シンポジウム1では、静岡県には原子力発電所があることから災害時における産業医活動といった内容で、シンポジウム2では、深夜業・業務形態をキーワードにした健康管理といった内容で企画を進めています。最後にポスターセッションについて参加型の協議会をイメージして、多数の参加をいただくよう企画推進して参りたいと考えています。

身近な開催地でもあり、是非、多数の方に参加いただきますようご案内申し上げます。

日本産業衛生学会

第8回産業衛生技術部会大会

大会テーマ：「職場改善へのサポート」

日程：2003年10月29日（水）

場所：中小企業振興会館（名古屋）緑十字展内会場

実行委員長：土屋真知子（社団法人 静岡県産業環境センター）

事務局：土屋博信（名古屋衛生研究所）

tel：052-841-1511、fax：052-841-1514

URL：http://tosh-net.umin.jp/JSOhtech_8/

【内容】

上記の通り、大会テーマは「職場改善へのサポート」に決定致しました。衛生管理者、作業環境測定士、労働衛生コンサルタント、人間工学専門家など、職場改善活動に従事する産業保健スタッフ・実務者を対象に、スキルアップと現場で役に立つ情報提供ができるような講演会・シンポジウムを現在企画中です。

なお、会場は2003年に名古屋で開催される緑十字展内の会場をお借りする予定となっています。緑十字展は中央労働災害防止協会が毎年主催し、安全衛生保護具、作業環境改善機器などのメーカーが出展し、最新情報が集まる場です。緑十字展にも是非ご参加いただき、職場の安全衛生水準の向上へ役立てて頂きたいと思います。

第8回技術部会大会の詳しい情報は今後、順次ホームページにも掲載していく予定です。上記URLからアクセスしてください。また、本大会に対するご質問は、事務局までお気軽にお問い合わせください。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

シリーズ 産業衛生に携わって

産業看護職に携わって



小川 則子 (東邦ガス)

健康支援

当社では、健康診断終了後に健診結果や自分の日常生活を振り返る事を目的に、全従業員に面談し保健指導を実施している。

その面談により、その人のライフステージや健康観が少しみえてくる。従業員にとっては1年に1度自分の健康度や生活習慣について確認できる良い機会だと言える。また看護職にとっても経年的に従業員の様子を直に把握できる良い機会である。15分という限られた時間内で看護職と従業員が向かい合ってその人の生活習慣を話し合ったり、問題となる事を認識しあえる唯一の時間である。

もし限られた時間内に終了できない大きな問題点がある場合は、後日本人の了解のもと改めて日時を設定する事もまれにある。

押し売りのような保健指導はしない、相手と同じ目線で話し合うことを基本的に心がけている。

対象側に「きく耳」がない場合は何度同じ話をしても、ことわざにあるように「馬の耳に念仏」状態にあり、反映される事は困難である。なぜこの人はきく耳をもたなのだろうか、もてないのだろうかを考えてみるが未だよく解らない。それでも今後の展開に希望を持って次回につながればとささやかに祈るのみである。

考えてみるとこれは、働きかけによる行動の変容を期待していると言えるのではなからうか。今後はあなたまかせではなく「自分の健康は自分で守る」という信念を浸透させ、行動できるような健康支援ができればと考えている。

メンタルヘルス対策

近年、我が国では職場における不安・悩み・ストレスを感じる労働者の増加、そして業務による心理的負荷を原因とする精神障害や自殺の増加等を背景にメンタルヘルス対策が課題となっている。また厚生労働省が平成11年9月に「心理的負荷による精神障害に係る業務上外の判断指針」、平成12年8月には「事業場における労働者の心の健康づくりのための指針」を策定し、企業に対しメンタルヘルス対策を進めるよう求めている。以上のことから、当社においてもメンタルヘルス対策の組織的な取り組みを打ち出し「メンタルヘルス活動指針」を策定し、全社的に活動を推進している。我々看護職もメンタルヘルスのリーフレットを第一段・第二段と作成し、全従業員に配布した。またそれに基づいて管理監督者教育を行なっている。平行して相談体制等の整備を行ない、積極的に全社活動を展開していく予定である。



鉄道会社の産業医業務に従事して

遠田 和彦 (東海旅客鉄道)



鉄道会社の産業医となって3年が経とうとしていますが、当社の産業医学的特徴として、①分散事業場の集合体、②業種が多様、③公共の安全の確保、という3点がまず挙げられます。

①については、会社の専属社員である産業医として、社内各事業所の嘱託の産業医を任されておられ、企業内産業保健センター勤務の形態をとっています。②については、鉄道だけでも運輸、営業、電力、通信、土木、車両整備、事務などと多様ですが、子会社化した業務は、ホテル、バス、警備、不動産、建設、小売り、出版、製造などほとんどの業種をカバーしています。この①と②が、産業医としての難しさを感じる部分ですが、最も緊張感のある側面は③です。当社産業医は、国土交通省令に規定された鉄道運転従事者の医学適性検査として、視器、聴器、循環器、その他の心身機能について判定を行っています。微妙な異常所見や、特に基準が定められておらず業務に支障があるかどうか不明な疾患は、非常に悩むところであり、複数の医師で判定委員会を開くことも珍しくありません。判定が甘すぎれば省令違反になったり、公共の安全確保に支障を来す可能性が出たりしますし、厳しすぎれば社員の就労の機会をむやみに奪いかねません。このような背景と鉄道会社の社会的使命からも、会社全体が健康管理の重要性を認識しており、規程上は所属長責任である健康管理も実質的には産業医が社内的責任者であると考えられています。したがって、労働安全衛生法的には責任を問われないことになっている産業医も、社内的には健康管理に関する強い権限と重い責任を負っていることになります。健康管理のみならず、労働衛生全体についても産業医に対する期待が大きいと感じることが多々あり、各職場のみならず、本社中核部門とも密接な関係を保っております。

ところで、産業医活動を通じて実際に悩む事柄ですが、例えば社員数50人の職場も400人の職場も、法的には同一の位置づけです。いずれも月1回以上の巡視が義務づけられているわけですが、どんなに産業医が多忙であろうが、職場で何の問題もなさそうであろうが、確実に巡視が毎月行われており、会社として一切の妥協はありません。このため、限られた人数の産業医が複数の事業所を担当している関係の制約も大きく、月2回以上来てほしいといっている多くの職場の要望に答えることは一般には不可能です。安定した職場の巡視は2ヶ月に1回に減らすなど、社内で業種や職場事情によって巡視方法を自由に設定することが可能になれば、これらの問題は解決できるのですが、現行法令下では不可能です。社内LANを有効に活用したり、職場復帰希望の社員を上司と共に県境を越えて健診センターまで相談に来させたり、というのが現状です。産業保健が更に発展するにつれ、法令ももっと様々なケースに対応できるように改正されていくことを望んで止みません。まずは、会社の発展と社会への貢献を目指して深夜まで活動する毎日です。

学会・研究会

第56回職場ストレス研究会

渡邊美寿津 (愛知医大・医・衛生)

第56回職場ストレス研究会が、10月9日、名大鶴友会館にて開催されました。従来の研究会では成功例を扱うことが多かったのですが、今回は『ストレス・メンタルヘルス対策はなぜうまくいかないのか?』をテーマに、グループワーキングが行われました。以下、内容を簡単に紹介させていただきます。

- 1) 経営層の理解がない、精神疾患を精神論・根性論で片付けようとする。
- 2) 復職に際して、試し出勤などの段階的復職や復職そのもののシステムがない。
- 3) 従来の雇用慣行の崩壊、先行き不安、サバイバー症候群への対応がない、過重労働をしても働きすぎの自覚のない人がいる、メンタルヘルスに割く時間的・経済的ゆとりがない。
- 4) スタッフの不足・教育不足、キーパーソンがいない、保健師、心理相談員が孤立してしまう。
- 5) 職場が管理的、あるいは隠したがる雰囲気、相談体制が機能しない、サポート体制ができていない。
- 6) 度々の休業や仕事のしわ寄せから、メンタル不全者への不満が高い、職場モラルが低下する危機、主治医とのコミュニケーションが不足。
- 7) 発症予防につながる対策がない、効果の評価が不明確、など。問題点への対応を交えながら、活発なディスカッションができたことは、積極的に参加いただいた方々の力によるところだと感じています。また、残された問題点についても、今後、研究会の課題としてとりあげ、解決に向けて努力してゆきたいと考えています。

第6回産業衛生技術部会大会

榎原 毅 (名市大・院・労働・生活・環境保健学)

第6回産業衛生技術部会大会が、緑十字展(平成14年10月23日、於:福岡国際センター)の会場にて開催されました。

午前中は田中雅人先生(トヨタ自動車九州)、大和浩先生(産医大)、三宅晋司先生(産医大)に産業保健活動の基礎である「労働衛生の3管理」の動向や取り組み事例をご紹介頂きました。

引き続き午後は①堀江正知先生(産医大)「これからの職場巡視」、②D.J.Jahng先生(産医大)「これからの産業保健企画」、③保利一先生(産医大)「これからの人材養成」のご講演があり、引き続き活発な質疑応答が行われました。その中で、D.J.Jahng先生のご講演では、産業保健活動のプランニングや成功・失敗要因分析の適用など、マーケティング的アプローチを導入した産業保健活動という、新しい方向性を示して頂きました。また、保利先生には、欧米におけるインダストリアル・ハイジニスト(IH)の認定制度についてご紹介いただき、今後国内において自主対応型であるOSHMSの導入に伴い、IHの人材育成・認定制度の必要性等の方向性をご教示頂き、大変有意義な講演会となりました。

なお、2003年10月には名古屋で第8回産業衛生技術部会大会が開催されます。大会テーマも「職場改善へのサポート」に決定し、現在、土屋真知子実行委員長のもと準備を進めております。詳しくはhttp://tosh-net.umin.jp/JSOHtech_8/をご覧ください。多数の方々の参加をお待ちしております。

第12回産業医産業看護全国協議会

白田多佳夫 (聖隷予検センター)

平成14年10月25日～10月26日、熊本市で開催された第12回全国協議会に参加した。第13回は東海地方会の担当。静岡県が開催地となったため、企画運営進行、財源を含めて担当者より直接事情を聴取した。熊本市産業文化会館を会場に、日赤熊本健康管理センター小山和作所長が、企画運営委員長で会が進められた。

メインテーマは、「めざそう!産業保健と地域保健の連携」で、

初日10月25日(金)は、産業医プロフェッショナルコース、産業看護部会幹事会、産業医部会幹事会があり、ワークショップ①「事業所におけるメンタルヘルスの対応―事業場外資源との連携」、②「中小企業における産業保健活動」、③「若年労働者の健康管理はいかにあるべきか」が行われた。近年特に問題になっているところが視点が当てられた。夜は、熊本交通センターホテルにて懇親会が盛大に催された。

10月26日(土)は、大会長講演としてメインテーマである「産業保健と地域保健の連携」があり、ポスターセッションの発表11題がロビーで説明、質疑応答がなされた。また、産業看護部会総会、合同幹事会も行われた。午後は、シンポジウム①「産業保健活動をどう評価するか」②「健康日本21と産業保健活動」が大ホールで開催され、約200名の会員が熱心に聴講した。なお、2日間の参加者総数は250名と報告された。

次回第13回は、平成15年10月17日～18日で、会場は浜松市アクティシティ中ホール及びコンgresセンター会議室。メインテーマは「多彩な健康管理の課題と展望」が挙げられている。企画運営委員長は鎌田隆(静岡県産業保健推進センター所長)、代行:白田多佳夫(聖隷福祉事業団保健事業部長)、事務局:聖隷健康診断センター。現在企画運営委員が準備活動中。第12回全国協議会の懇親会、閉会の折、第13回の案内・参加勧誘を行った。

これからの諸行事予定

1. 第50回頸肩腕障害研究会

日時:2003年1月11日(土)10:00～16:00

場所:同志社大学・今出川キャンパス至誠館3階会議室
(京都市上京区今出川通烏丸東入)

内容:午前 一般演題

午後 特別講演

「上肢における筋骨格系障害の診断と防止に関する研究」
Dr.Thomas Läubli

(Senior Lecturer at the Department of Production Engineering and at the Department of Environmental Sciences, Swiss Federal Institute of Technology,Zurich)

提案:頸肩腕障害の定義について 世話人会より

参加費:1,000円

代表世話人:小野雄一郎

〒470-1192 愛知県豊明市香掛町田楽が窪1-98

藤田保健衛生大学医学部公衆衛生学教室

TEL:0562-93-2453 FAX:0562-93-3079

E-mail:yono@fujita-hu.ac.jp

2. 日本産業衛生学会 産業看護講座 実力アップコース

第2回集中講座(2日間で21単位取得可能)

日時:平成15年1月31日(金)～2月1日(土)

会場:大阪産業保健推進センター

対象:日本産業衛生学会産業看護師の登録者

受講料:学科員38,000円 非学科員48,000円

定員:60名

申込先:①日本産業衛生学会 産業看護講座事務局

〒165-0011 東京都新宿区若葉2-5-16向井ビル3F

(株)ヒューマン・リサーチ内

TEL:03-3358-4001 FAX:03-3358-4002

申込み:受付後1週間で定員となり締切りました。(13年8/28)

3. 本産業衛生学会産業看護講座第6回基礎コース(後期)

日程:2003年2月6日(木)～8日(土)

会場:日本教育会館(東京)

4. 第4回労働衛生活動評価研究会

日程:2003年2月21日(金)

場所:名古屋大学医学部鶴友会館(名古屋市昭和区鶴舞65)

主題:我が社の健康管理システムの概要と事後処置Ⅱ

一定期健康診断を中心にして一

講演1. 松下電工(株)伊勢工場 橋口 克頼先生

講演2. 三菱重工(株)名古屋誘導推進システム製作所 松元 優子先生

講演3. 豊田工機(株) 杉本日日出子先生

参加費:2,000円

連絡先：吉田 勉
〒470-1192 愛知県豊明市杵掛町田楽が窪1-98
藤田保健衛生大学医学部公衆衛生学教室
TEL：0562-93-2453 FAX：0562-93-3079

5. 静岡県産業保健研究会

日時：2003年3月7日(金) 13:00~16:45
場所：静岡県女性総合センター あざれあ
内容：特別講演「健康増進法をどう展開するか」
松田晋也(産業医大)
シンポジウム「地域保健と産業保健の連携」
一働きざかりの健康づくりー
シンポジスト 雑賀 俊夫(熱海健康福祉センター)
小田原 努(日立健康管理センター)
他1名予定

6. 27th ICOH

(27th International Congress Occupational Health)
日程：2003年2月23日(日)~28(金)
会場：Iguassu Falls (Brazil)
URL：http://www.icoh2003.com.br/

7. 第18回産業医・産業看護職・衛生管理担当者のための研修会

日程：2003年3月14日(金)
場所：産業技術会館 TEL：052-551-6111
会費：非会員；8,000円 会員；7,000円(資料・昼食費を含む)
プログラム(演題は仮題)
講演「生活習慣病と遺伝子」
愛知県がんセンター 浜島 信之
座長 柴田 英治(名大・医・保健)
講演「『自覚症しらべ』について」
名市大・院・医・労働・生活・環境保健学 城 憲秀
座長 青山 京子(静岡県金属保健浜松)
講演「多様化する労働形態とその課題」
関西学院大 柳屋 孝安

座長 井谷 徹(名市大・院・医・労働・生活・環境保健学)
講演「過重労働による健康障害防止のための総合対策」
愛知医大・衛生 小林 章雄

座長 松田 元(松下電工四日市)
事務局：名古屋市立大学大学院医学研究科労働・生活・環境保健学分野内
日本産業衛生学会東海地方会事務局
〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町川澄1
TEL：052-853-8171 FAX：052-859-1228
E-mail:tosh`net@med.nagoya`c.ac.jp

8. 第76回日本産業衛生学会

第76回日本産業学会企画運営委員長 芳原 達也
会期：2003年4月24日(水)~27日(日)
会場：山口市市民会館ほか
各種行事：4月23日(水) 評議委員会、自由集会
4月24日(木) メインシンポジウム等、一般口演およびポスター発表、自由集会
4月25日(金) 総会、学会長講演、特別講演、シンポジウム、一般講演、懇親会
4月26日(土) シンポジウム等、一般口演およびポスター発表自由集会、地域交流会
4月27日(日) 特別研修会、産業医プロフェッショナルコース
事務局連絡先：〒755-8505 山口県宇部市南小串1-1-1
山口大学医学部人間環境予防医学講座(公衆衛生)内
TEL：0836-22-2231 FAX：0836-22-2323
E-mail:sannei76@yamaguchi`u.ac.jp

9. IEA2003 (International Ergonomics Association)

日程：2003年8月24日(日)~29(木)
会場：COEX ASEM Convention Center, Soul (Korea)
URL：http://www.iea2003.org/

<p>財団法人 愛知健康増進財団 会長 安部 浩平 理事長 土井 寛己 診療所長 小倉 幸夫 〒462-0844 名古屋市北区清水1-18-4 TEL(052)951-3331(代)</p>	<p>謹 賀 新 年</p> 	<p>医療法人 愛知集団検診協会 愛知健診所 〒496-0048 津島市藤里町2-3-1 TEL (0567) 26-7328番 FAX (0567) 26-7994番</p>
<p>厚生労働大臣認可 財団法人 オリエンタル労働衛生協会 会長 岡田 邦彦 理事長 岩塚 徹 〒464-0850 名古屋市千種区今池一丁目8番4号 TEL (052) 732-2200</p>		<p>財団法人 岐阜県産業保健センター 理事長 籠橋 久衛 診療所長 加藤 保夫 〒507-0801 多治見市東町1丁目9番地の3 TEL(0572)22-0115</p>
<p>医療法人 光生会病院 〒440-0045 豊橋市吾妻町137番地 TEL (0532) 61-3166 FAX (0532) 63-5407</p>		<p>財団法人 芙蓉協会 聖隷沼津第一クリニック 聖隷沼津健康診断センター 所長 福田 崇典 〒410-8580 沼津市本字下一丁目田895-1 TEL (055)962-9882 FAX (055)952-1019</p>
<p>(社福) 聖隷福祉事業団 聖隷健康診断センター 所長 大條 浩 〒430-0906 浜松市住吉2丁目35-8 TEL(053)473-5501</p>		<p>(社福) 聖隷福祉事業団 聖隷予防検診センター 所長 白田 多佳夫 〒433-8558 浜松市三方原町3453-1 TEL(053)439-1111</p>
<p>社団法人 瀬戸健康管理センター 理事長 加藤 庄右 診療所長 坪井 靖治 〒489-0809 瀬戸市共栄通1丁目48番地 TEL (0561) 82-6194 FAX (0561) 85-2466</p>		<p>健診健康総合サービス (財) 全日本労働福祉協会東海支部 支部長 小浜 尚 〒457-0044 名古屋市南区柵下町2-4 TEL(052)822-2525</p>

会員の異動

- 新入会** 愛知 ①高見澤千恵美 (マキタ岡崎工場診療所) ②中森恵美 (N T T西日本 健康管理センター) ③加藤尚一 (かとうデンタルクリニック) ④川瀬仁史 (愛知学院大・歯・歯周病学) ⑤佐橋将夫 (サハシ歯科医院) ⑥森川重敏 (三菱自動車工業株式会社)
- 静岡 ①望月 裕 (立華工業) ②城後志保 (東芝キャリア) ③仁佐浩子 (松下電池工業) ④村上祐介 (むらかみ歯科クリニック)
- 三重 ①住田安弘 (三重大・医・第3内科) ②石川裕美 (JFEグループNKK津製作所診療所) ③桑原芳歌 (富士電気) ④町野由佳 (三重県総合医療センター) ⑤吉田祐児 (よいほの歯科診療所)
- 岐阜 ①奥村美奈子 (岐阜県立看護大) ②兼松恵子 (岐阜県立看護大) ③栗田孝子 (岐阜県立看護大) ④林 由美子 (岐阜県立看護大)
- 転入** 愛知 ①神里みどり (名古屋大学医学部保健学科) …関東地方会より
- 静岡 ①内野明日香…関東地方会より ②内野文吾 (ヤマハ発動機健康推進センター) …関東地方会より
- 三重 ①金岡 緑 (三重大・医・看護学科) …関西地方会より
- 退会** 愛知 ①渡邊 悟 (大同病院) ②世古つよ子 ③久米 弘 (中北薬品) ④斉藤晶子 (三菱自動車工業) ⑤佐藤由利子 ⑥安田 淳 (中北薬品)
- 転出** 愛知 ①三輪正人 (藤田保健衛生大学) …関東地方会へ
- 静岡 ①廣田健児 (フジ虎ノ門整形外科病院) …北陸・甲信地方会へ
- 静岡 ①大場俊彦 (済生会病院) …関東地方会へ
- 三重 ①大久保浩司 (東芝ヒューマンアセットサービス四日市工場保健センター) …関東地方会へ
- 岐阜 ①丸田英夫 (自衛隊岐阜病院) …九州地方会へ

編集後記

2003年、あけましておめでとうございます。時は、世紀末からミレニアムに移り、新世紀の序章が開かれつつあります。そういえば、地方会NEWSには、かけだし産業医の頃から随分お世話になってきました。新しい情報を提供していただきつつ、先達の方々の業績も介間見ることができ、「故きを温ねて新しきを知る」気持ちで拝見したことを懐かしく思い出します(涙)。

昨年2月、厚生労働省が出した「過重労働による健康障害防止のための総合対策」は大きな話題となりましたが、今年の目玉は何でしょう？日本人のノスタルジーが消えることなく、新しい策定と共存し、働く人々の多くが素直な気持ちで受け入れられる、そんな序章を期待しています。

(渡邊美寿津)


次回発行 平成15年5月1日
編集責任者 谷脇 弘茂 (藤田保衛大)


編集委員 (五十音順)


- 市原 学 (名大) 伊奈波良一 (岐大)
加藤保夫 (岐阜県産業保健センター) 後藤田治郎 (住友軽金属)
五藤雅博 (旭労災病院) 後藤義明 (プラザー工業)
神原久孝 (名大) 住吉健一 (旭化成富士)
高橋正子 (東芝四日市) 城 憲秀 (名市大)
巽あさみ (藤田保衛大) 寺澤哲郎 (東海銀行)
長岡 芳 (藤田保衛大) 松田 元 (松下電工四日市)
松本忠雄 (愛知県津島保健所) 武藤繁貴 (聖隷健診センター)
山田琢之 (名古屋労働性コンサルタント) 吉田 勉 (藤田保衛大)
渡邊美寿津 (愛知医大)

GHL 社団法人 加茂医師会立
総合保健センター
〒505-0046 美濃加茂市西町7丁目169番地
TEL (0574) 25-5324 FAX (0574) 25-0480

財 東海検診センター
理事長 宮崎 勤治
診療所長 斉藤 俊二
〒410-0003 沼津市新沢町8-7
TEL (055) 922-1157
FAX (055) 923-5078

 **名古屋市医師会協同組合**
名古屋市医師会健診センター
理事長 丹羽 巽
〒461-0004 名古屋市東区葵一丁目4番38号
TEL (052) 937-8460 FAX (052) 937-7893

 **医療法人 大医会**
日進おりど病院
〒470-0115 日進市折戸町西田面110番地
TEL 05617 (3) 7771 FAX (3) 6159

 **社団法人**
半田市医師会健康管理センター
所長 榊原 幹雄
〒475-8511 半田市神田町1-1 TEL(0569)27-7881

謹賀新年 平成十五年元旦

医療法人 九愛会
中京サテライトクリニック
理事長 宮 嶋 忍
〒470-1101 愛知県豊明市香掛町石畑180番地の1
TEL (0562) 93-8225(代) FAX (0562) 93-0938

(医) 豊昌会
豊田健康管理クリニック
理事長 加 藤 昌 平
〒473-0907 豊田市竜神町新生151番地2 TEL (0565) 27-5550
FAX (0565) 27-5036

 **医療法人 名翔会**
名古屋セントラルクリニック
Nagoya Central Clinic
〒457-0047 名古屋市南区城下町3丁目14番地
TEL (052) 821-0090 FAX (052) 824-0655

財 日本予防医学協会 名古屋出張所
健康フォーラム名古屋談話室
〒461-0002 名古屋市東区代官町39-18
TEL (052) 931-0526・FAX (052) 932-7092

(医) 卓和会 しらゆりクリニック
理事長 由 利 卓 也
〒442-0013 豊川市大堀町77番地 TEL.0533-86-1515